

英語科

テーマ 「ICT 機器の活用による学習の個別最適化を目指す授業の実践」

1 本時の学習のねらい

「1 学年」

- ・音声を聞いて正しい発音の仕方を理解することができる。（知識及び技能）
- ・習得した表現を用いて自己表現することができる。（学びに向かう力、人間性等）

「2 学年」

- ・習得した表現を用いて自分の言葉でコミュニケーションをとることができるよう音声を正しく理解する。個別最適な学びとして個々に適した進め方で粘り強く表現する力を身につける。（知識及び技能）

「3 学年」

- ・デジタル教科書の音声を確認し、粘り強く聞き、正確な発音を理解しようとする。（学びに向かう力、人間性等）
- ・習得した発音、表現を通して英語らしく教科書の音読をすることができる。（知識及び技能）

2 研究への取り組み

「1 学年」

- ・デジタル教科書の音声機能を使って、全体での発音練習、個別での音読練習を行う。
- ・学びポケットの発表ノートを使って、授業のまとめとして英作文をする。

「2 学年」

- ・正しい発音を習得するためにデジタル教科書および英語で Qubena を活用し、一人ひとりが自分の目指すゴールと学習計画を設定し、主体的に学習を進める。
- ・自分に合った速度やレベル決めて発音練習を行い、録画して提出した音読テストの結果を自己分析した上で自分の理解度を認識し、次の学習内容に役立てる。

「3 学年」

- ・レベル別にゴールと学習計画を設定し、主体的に学習を進める。
- ・デジタル教科書および録画した見本の ALT の動画を活用し、正しい発音を習得するために自分に合ったレベル、内容、速さを設定し、繰り返し練習を行う。
- ・録画して提出した音読テストの結果を受けて、自己分析をし、次の学習内容に役立てる。

3 主な学習活動 活用した ICT 機器・教材・コンテンツ等

	1 学年	2 学年	3 学年
目指す ゴール と計画	・デジタル教科書の活用 ・発表ノートの活用	・ゴールと計画の設定 ・デジタル教科書の活用 ・レベルを 7 段階に設定	・ゴールと計画の設定 ・デジタル教科書の活用 ・レベルを 8 段階に設定
学習活動	・音読練習 ・まとめとしての英作文	・発音練習の繰り返し ・レベルが達成したら録画し、発表ノートに提出	・授業で練習 ・提出まで 2 週間各自練習 ・録画し、発表ノートに提出

ふり返り 自己評価	・発表ノートをプリントして ALT からの添削	・教師が評価し、生徒も自己分析をする ・各自振り返り用紙を記入し、発音の向上を図る	・ALT からの評価を受け、「何を意識したか、できたこと、今後頑張ること」を記入
--------------	-------------------------	--	--

4 授業の実践より ～ICT 活用の成果と課題～

「1 学年」

○成果

- ・自分のペースで単語や音読の学習ができた。
- ・毎時間ふりかえり用紙を用意しなくても、タブレットでノートをつくって提出させた方が、紙の用意の手間が省けるし、できた人の分だけ添削するので時間と紙の節約になる。
- ・上位の子は何度も繰り返して発音を聞くなどの活用が見られた。
- ・低位の子でも、音読活動には取り組ませやすい。英作文も、紙に書く時よりも取り組む姿が見られた。プリントを整理する必要がないので、取り組むハードルが低いのではないかな。

●課題

- ・タイムキープをして活動にメリハリをつけたほうがよい。

「2 学年」

○成果

- ・デジタル教科書はスピード調整ができ、自分のペースに合わせて進めることができたので達成感が得られた。
- ・授業に加え、家庭学習でも発音練習や録画の練習ができ、正しい発音を身につけることができた。

●課題

- ・初めての録画提出で声の大きさの加減が難しかった。特に聞こえない生徒のやり直しが多かった。
- ・レベル設定のイメージが高くなり、目標到達できない生徒もいた。自己分析の方法も教えたい。

「3 学年」

○成果

- ・レベル別に取り組んだことで、自分のゴールを目指して意欲的に取り組む生徒が多くいた。
- ・何回も音声を確認し、自分が納得のいく動画を提出しようと粘り強く取り組んでいた。
- ・頑張った生徒はおおよそ 20 個録画をしていた。
- ・表現や発音など個別に学んだことで自信を持てた生徒が多くいた。

●課題

- ・自分で取り組めない生徒がいた。録画も提出できない生徒もいた。
- ・録画の際に、顔を映さないで録画している生徒やマイクが入っていない生徒がいた。録画の方法や注意点など細かい確認が必要だった。

5 ICT を効果的に活用するポイントなど

- ・生徒が苦手とする英作文もタブレットの活用により、紙面の時より取り組みへの意欲が向上した。時間と紙の節約に加え、音声の練習も意欲的に行う生徒が増え、効果があった。
- ・英語において ICT の活用は音声を聞くことができる点が最大のメリットと言える。授業だけでなく家庭学習としても正しい発音を繰り返し練習することで力がついていくと考える。